

消防のあゆみ

- 昭和29年11月 町村合併で1町7か村（鳥羽町・加茂村・長岡村・鏡浦村・桃取村・答志村・菅島村・神島村）が合併し鳥羽市となり、旧町村消防団も合併して鳥羽市消防団が発足する。
1団9分団、団員数725人。
- 昭和30年 1月 加茂分団第2部、長岡分団第2部に手引動力ポンプを配備。
3月 消防団本部に消防ポンプ自動車を配備。
6月 消防団員の定数を改め649人。
鏡浦分団に小型動力ポンプを配備。
10月 菅島分団に小型動力ポンプを配備。
- 昭和31年 1月 県知事・県消防協会会長から竿頭綬を授与される。
12月 長岡分団第3部に手引動力ポンプ、長岡分団第4部・第5部、鏡浦分団第1部、桃取分団第3部に小型動力ポンプを配備。
- 昭和32年11月 長岡分団第1部、坂手分団第1部に小型動力ポンプを配備。
- 昭和33年 3月 畔蛸町、石鏡町、千賀町、鳥羽町に防火水槽を新設。
4月 杉田寅之助氏から消防ポンプ自動車の寄贈を受け、鳥羽分団第4部に配備。
7月 第2回三重県消防操法競技大会に出場し努力賞を受賞。
10月 答志分団第1部、第3部に小型動力ポンプを配備。
11月 菅島分団第1部に手引動力ポンプを、坂手分団第2部に小型動力ポンプを配備。
菅島町に防火水槽を新設。
- 昭和34年 2月 三重県消防大会を開催、日本消防協会会長から表彰旗を授与。
7月 第3回三重県消防操法競技大会に出場し優勝。
8月 中部7県消防操法競技大会に県代表として出場し、第4位に入賞。
11月 消防団本部、加茂分団、鏡浦分団第3部に小型動力ポンプを配備。
- 昭和35年 2月 加茂分団第5部に手引動力ポンプを配備。
11月 菅島分団第2部に手引動力ポンプを配備。
国崎町、石鏡町に防火水槽を新設。
- 昭和36年 2月 鳥羽分団第2部に消防ポンプ自動車を配備。
11月 鳥羽分団第6部、鏡浦分団第2部に小型動力ポンプを配備。
- 昭和37年11月 鳥羽町字大里に防火水槽を新設。
消防団本部に消防ポンプ自動車を配備。
- 昭和38年 3月 菅島町に防火水槽を新設。
11月 鳥羽市消防本部を設置、職員7人で発足、消防ポンプ自動車とジープを配備。
神島町に防火水槽を新設。
桃取分団第3部に小型動力ポンプを、答志分団第1部に手引動力ポンプを配備。
- 昭和39年 7月 消防団員の定数を改め610人。
8月 長岡分団第1部に、消防ポンプ自動車を配備。
10月 鳥羽ライオンズクラブから救急車（ニッサン・セドリック）の寄贈を受け、消防本部に配備。
12月 鳥羽町（本町）に防火水槽を新設。
- 昭和40年 6月 答志分団第3部に手引動力ポンプを配備。
7月 菅島分団に小型動力ポンプを配備。
9月 消防用無線機（基地局）を消防本部に、移動局を消防ポンプ自動車に設備。

昭和41年 4月 答志分団第2部に手引動力ポンプを、鏡浦分団第3部に小型動力ポンプを配備。
8月 加茂分団第4部に消防ポンプ自動車を配備。

昭和42年 4月 消防署を開設。
5月 (社)日本損害保険協会から火災保険号(中型消防ポンプ自動車)の寄贈を受け、消防署に配備。
6月 消防団員の定数を改め595人。
8月 鏡浦分団第1部、長岡分団第5部に小型動力ポンプを配備。
10月 相差町に防火水槽を新設。

昭和43年 10月 鳥羽分団第5部に消防ポンプ自動車を、坂手分団、神島分団に小型動力ポンプを配備。
12月 菅島町に防火水槽を新設。

昭和44年 8月 加茂分団第1部、答志分団第1部、長岡分団第1部、菅島分団第1部に小型動力ポンプを配備。
9月 水槽付消防ポンプ自動車(1,500リットル・A2級)を消防署に配備。

昭和45年 9月 三重県と共催で、総合防災訓練を実施。
12月 磯部町・阿児町・浜島町・大王町・志摩町との間で消防防災業務相互応援協定を締結。
12月 (社)生命保険協会から救急自動車の寄贈を受ける。

昭和46年 5月 鳥羽市防火協会発足。
7月 鳥羽海上保安部との間に消防業務協定を締結。
10月 消防本部・署庁舎が船津町に落成。
消防無線を超短波に切り替える(基地局1、移動局2)。

昭和48年 3月 第24回三重県消防大会を開催。
9月 志摩広域消防組合と消防防災業務相互応援協定を締結。

昭和49年 6月 鳥羽分団第3部に消防ポンプ自動車を配備。
7月 第4回志摩支部操法競技大会で、自動車の部・小型動力ポンプの部共に優勝。

昭和50年 2月 (社)日本損害保険協会から救急車の寄贈を受け、消防署に配備。
7月 第5回志摩支部操法競技大会で、自動車の部・小型動力ポンプの部共に優勝。
消防無線を増強(基地局1、移動局6)。

昭和51年 1月 消防ポンプ自動車(いすゞ・エルフB1級)を消防署に配備。
7月 第6回志摩支部操法競技大会で、自動車の部・小型動力ポンプの部共に優勝。
10月 (社)日本損害保険協会から火災保険号(消防ポンプ自動車A2級)の寄贈を受け、消防署に配備。

昭和52年 3月 消防庁長官表彰旗を受賞。
7月 第7回志摩支部操法競技大会で、自動車の部・小型動力ポンプの部共に優勝。
8月 県操法競技大会に志摩支部代表として出場し、自動車の部で準優勝。
10月 消防無線を増強(基地局1、移動局10)。

昭和53年 7月 答志分団に消防ポンプ自動車を配備。

昭和54年 2月 神島分団に据付ポンプ(ディーゼル135PS・A1級)を配備。
7月 第8回志摩支部操法競技大会で、自動車の部・小型動力ポンプの部共に優勝。
7月 鳥羽分団第4部に普通ポンプ自動車、菅島分団に手引動力ポンプを配備。
8月 鏡浦分団第1部に小型動力ポンプ付積載車を配備。
8月 県操法競技大会に志摩支部代表として出場し、自動車の部で準優勝。

昭和55年 2月 長岡分団第2部に小型動力ポンプ積載車を配備。
7月 加茂分団第5部に小型動力ポンプを配備。
9月 鏡浦分団第3部に小型動力ポンプ付積載車、答志分団第4部に消防ポンプ自動車を配備。
9月 (財)日本船舶振興会から救急自動車の寄贈を受け、消防署に配備。

- 昭和56年 2月 離島に消防無線電話装置を配備。
7月 答志分団第3部、坂手分団、菅島分団に小型動力ポンプ、加茂分団第1部に普通ポンプ自動車を配備。
- 昭和57年 7月 桃取分団、神島分団に小型動力ポンプを配備。
- 昭和58年 10月 鳥羽分団第5部に普通ポンプ自動車を配備。
12月 答志分団第3部、桃取分団に小型動力ポンプ付積載車(軽)を配備。
12月 消防署に24m級はしご付消防ポンプ自動車を配備。
- 昭和59年 7月 長岡分団第5部、菅島分団に小型動力ポンプ付積載車(軽)、鏡浦分団第1部、答志分団第4部に小型動力ポンプを配備。
8月 長岡分団第3部に小型動力ポンプ付積載車(軽)、広報車(軽)を消防本部に配備。
- 昭和60年 10月 加茂分団第6部、神島分団第1部に小型動力ポンプ付積載車(軽)を、坂手分団に手引消防ポンプを配備
- 昭和61年 2月 危険物災害防ぎょ体制の充実を図るため化学消防ポンプ自動車(A2級)を消防署に配備。
8月 加茂分団第4部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
10月 鳥羽市危険物安全協会発足。
12月 (財)日本自動車工業会から救急自動車の寄贈を受け、消防署に配備。
- 昭和62年 9月 鳥羽市防火協会から消防広報車(資機材搬送車)の寄贈を受け、消防本部に配備。
10月 鳥羽分団第6部、加茂分団第3部に小型動力ポンプ付積載車を、長岡分団第4部に小型動力ポンプ付積載車(軽)を配備。
- 昭和63年 8月 菅島分団に小型動力ポンプ付積載車(軽)を、神島分団に小型動力ポンプを配備。
12月 救難用救命ボート(船外機付)2艇を消防署に配備。
- 平成 元年 2月 (社)日本損害保険協会から救急自動車の寄贈を受け、消防署に配備。
3月 消防無線(移動局22基)を増強。
三重県下消防相互応援協定を締結。
10月 消防団本部に人員搬送兼災害対応車(4WD、8人乗り)を配備。
11月 長岡分団第1部に小型動力ポンプを配備。
- 平成 2年 8月 (財)日本消防協会から消防指令広報車の寄贈を受け、消防本部に配備。
9月 加茂分団第2部に小型動力ポンプ付積載車、鏡浦分団第3部に小型動力ポンプを更新配備。
12月 (社)日本損害保険協会から小型動力ポンプの寄贈を受け、菅島分団第3部、神島分団に配備。
- 平成 3年 11月 加茂分団第5部に消防ポンプ自動車を配備。
答志分団第3部に小型動力ポンプを更新配備。
- 平成 4年 3月 (社)日本損害保険協会から小型動力ポンプ付積載車の寄贈を受け、答志分団第1部に配備。
4月 鳥羽分団第1部・2部を統合し、鳥羽分団第2部とする。
7月 県操法競技大会に、志摩支部代表として小型動力ポンプの部に出場。
11月 (社)日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配備。
鳥羽分団第2部に消防ポンプ自動車を更新配備。

- 平成 5年 3月 三重トヨタ自動車(株)から救急自動車の寄贈を受け、消防署に配備。
4月 三重県防災航空隊1名派遣(2年間)。
10月 答志分団第3部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
12月 長岡分団第1部に消防ポンプ自動車、長岡分団第2部に小型動力ポンプを更新配備。
- 平成 6年 2月 事務連絡車を消防本部に配備。
3月 高規格救急自動車を消防署に更新配備。
7月 県操法競技大会に南勢支部代表として自動車ポンプの部に出場。
11月 答志分団第2部に消防ポンプ自動車、桃取分団第2部に小型動力ポンプ付積載車、坂手分団第3部に小型動力ポンプを更新配備。
- 平成 7年 1月 阪神淡路大震災発生に伴い、神戸市に救援隊を派遣。
5月 鳥羽市危険物安全協会を鳥羽市防火協会に統合。
- 平成 8年 2月 鳥羽分団第3部に消防ポンプ自動車、長岡分団第2部に小型動力ポンプ付積載車、鏡浦分団第3部に小型動力ポンプを更新配備。
11月 救急救命士養成。
12月 菅島分団に消防ポンプ自動車を配備。
- 平成 9年 1月 鏡浦分団第1部、神島分団に小型動力ポンプを更新配備。
3月 第48回三重県消防大会を開催。
神島町に耐震性防火水槽を新設。
7月 潜水土を2人養成、潜水用資機材(2基)を消防署に配備。
9月 答志町和具に耐震性防火水槽を新設。
- 平成10年 3月 消防署に消防ポンプ自動車、鏡浦分団第2部に小型動力ポンプ付積載車、坂手分団に小型動力ポンプを更新配備。
5月 救急救命士養成。
11月 桃取町に耐震性防火水槽を新設。
12月 (社)日本損害保険協会から全自動小型動力ポンプ付積載車の寄贈を受け、桃取分団第2部に配備。
- 平成11年 3月 (財)日本消防協会から救急自動車の寄贈を受け、消防署に更新配備。
6月 潜水土を2人養成、潜水用資機材(2基)を消防署に配備。
11月 救急救命士養成。
12月 答志分団第2部に消防ポンプ自動車を更新配備。
- 平成12年 3月 菅島町に耐震性防火水槽を新設。
6月 潜水土を2人養成、潜水用資機材(1基)を消防署に配備。
7月 県操法競技大会に南勢支部代表として小型動力ポンプの部に出場。
- 平成13年 2月 神島分団に消防ポンプ自動車を配備。
(社)日本損害保険協会から小型動力ポンプの寄贈を受け、坂手分団に配備。
3月 坂手町に耐震性防火水槽を新設。
4月 鳥羽市防火協会からレコーディングレサシアン(蘇生訓練用人形)、スモークマシンの寄贈を受ける。
鳥羽市消防団長が、三重県消防協会南勢支会長に就任。
10月 鏡浦分団第3部、加茂分団第1部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。

- 平成14年 1月 石鏡町に耐震性防火水槽を新設。
2月 消防団研修センター及び鳥羽分団第3部格納庫完成。
3月 消防用無線機（基地局）を消防署に更新配備。
4月 鳥羽分団第3部、4部を統合し鳥羽分団第3部とする。
4月 消防団員の定数を改め550人。
6月 潜水土を2人養成。潜水用資機材（1基）を消防署に配備。
- 平成15年 3月 長岡分団第5部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
9月 潜水資機材（1基）を消防署に配備。
9月 高規格救急車を消防署に更新配備。
11月 救急救命士養成。
12月 （社）日本損害保険協会から全自動小型動力ポンプ付積載車の寄贈を受け、菅島分団第1部に配備。
- 平成16年 3月 答志町に耐震性防火水槽を新設。
- 平成17年 3月 桃取分団第3部格納庫を新築。長岡分団第3部、桃取分団第1部に小型動力ポンプ付積載車、菅島分団第3部、坂手分団第2部に小型動力ポンプを更新配備。
8月 膨張式エアータント（1基）を消防本部に配備。
10月 救急救命士養成。
- 平成18年 1月 加茂分団第6部に小型動力ポンプ積載車（軽）を更新配備。
3月 浦村町（今浦）に耐震性防火水槽を新設。
5月 潜水土1名養成。
- 平成19年 1月 加茂分団第4部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
3月 浦村町（本浦）に耐震性防火水槽を新設。
3月 消防本部庁舎耐震補強及び通信室移設工事を実施。
3月 鳥羽市防火協会から消防広報車の寄贈を受け、消防本部に更新配備。
3月 （社）日本自動車工業会から高規格救急自動車の寄贈を受け、消防署に配備。
5月 潜水土2名養成、水難救助用ドライスーツ（4着）を消防署に配備。
6月 高度救命処置トレーニング用シミュレーション人形を消防署に配備。
8月 指揮車を消防本部に更新配備。
9月 国崎町に耐震性防火水槽を新設。
9月 （財）日本消防協会の助成で模擬消火訓練装置を購入。
9月 救急救命士養成。
10月 長岡分団第4部に小型動力ポンプ付積載車（軽）を更新配備。
- 平成20年 4月 消防団員の定数を改め500人。
6月 潜水用資機材（1基）を消防署に配備。
9月 防刃チョッキ（救急隊1隊分）を消防署に配備。
9月 救急救命士養成。
12月 加茂分団第3部に小型動力ポンプ付積載車、長岡分団第1部に小型動力ポンプ付積載車（軽）を更新配備。

- 平成21年 3月 松尾町に耐震性防火水槽を新設。
 3月 119緊急電話受令台取替工事を実施。
 6月 防爆型送排風機及び特定小電力トランシーバーを消防署に配備。
 8月 ジェットシューター（60基）及び防火衣（60着）を消防団に配備。
 8月 桃取分団及び坂手分団にホースカーを各1台配備。
 8月 消防署の泡消火薬剤をスーパーフォームからメガフォームに更新。
 9月 救急救命士養成。
 10月 水難救助用ドライスーツ（4着）及び予備ボンベ（4本）を消防署に配備。
 11月 重量物排除器具（リフトバッグ）1式を消防署に配備。
- 平成22年 1月 （社）日本損害保険協会から小型動力ポンプ付積載車（軽）の寄贈を受け、答志分団第1部に配備。
 1月 加茂分団第2部に小型動力ポンプ付積載車、菅島分団第3部に小型動力ポンプ付積載車（軽）を更新配備。
 1月 安楽島町に耐震性防火水槽を新設。
 3月 事務連絡車（ハイブリッド車）を消防本部に更新配備。
 3月 30m級伸縮水路管付先端屈折式はしご車（4WS車）を消防署に更新配備。
 4月 消防本部の組織を変更し、消防総務室及び予防室を新設。
 5月 潜水土2名養成。
 9月 救急救命士養成。
- 平成23年 1月 救急車（3台）及び水槽車（1台）の車載電話を更新配備。
 2月 神島分団に小型動力ポンプを更新配備。
 3月 消防本部庁舎改修工事（トイレ等）を実施。
 3月 鳥羽ライオンズクラブから査察指導車の寄贈を受け、消防本部に配備。
 3月 東日本大震災発生に伴い、千葉及び宮城県に緊急消防援助隊を派遣。
 3月 人員搬送車を消防本部に更新配備。
 3月 桃取分団第1部・第2部格納庫を新築。
 3月 白木町に耐震性防火水槽を新設。
 5月 潜水土2名養成。
 9月 救急救命士養成。
 10月 相差町に耐震性防火水槽を新設。
 12月 衛星携帯電話（2台）を消防本部に配備。
- 平成24年 1月 船津町に耐震性防火水槽を新設。
 1月 AED（貸出用）を消防本部に配備。
 2月 携帯用投光器（171個）を消防団に配備。
 3月 岩倉町に耐震性防火水槽を新設。
 3月 高規格救急自動車を消防署に更新配備。
 3月 消防署雨量計を更新。
 3月 加茂分団第5部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
 3月 答志分団（第1部・第3部）格納庫を新築。
 7月 水災用資機材及び夜間活動用資機材を消防団各部に配備。
 9月 消防団格納庫（詰所13箇所）に災害情報収集用テレビ（デジタル）を整備。
 9月 救急救命士養成。
 10月 多目的防災テントを消防団に配備。
 12月 消防携帯無線機（5W型10基）を更新。

- 平成25年 2月 答志分団に小型動力ポンプ付軽積載車を更新配備。
 2月 災害対応特殊化学消防ポンプ自動車を更新配備。
 3月 桃取非常用サイレン設置工事を実施。
 4月 三重県防災航空隊1名派遣（3年間）。
 5月 潜水土2名養成。
 9月 救急救命士養成。
 10月 （一社）日本損害保険協会から小型動力ポンプ付積載車（軽）の寄贈を受け、桃取分団第3部に配備。
 11月 携帯電話119番直接受信システム更新。
 11月 ビデオ硬性挿管用喉頭鏡（1台）を消防署に配備。
- 平成26年 2月 答志分団第2部に消防ポンプ自動車を更新配備。
 3月 災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を更新配備。
 3月 安楽島町に飲料水兼用地上設置型耐震性防火水槽を新設。
 3月 鏡浦分団第3部詰所として旧石鏡保育所を改修。
 3月 消防救急デジタル無線活動波設備整備に係る実施設計を作成。
 3月 救命ボート（FRP製：1台）を消防署に配備。
 3月 総務省消防庁から小型動力ポンプ付積載車（軽）及び消防団拠点資機材の無償貸付を受け、小型動力ポンプ付積載車（軽）を桃取分団第1部に、消防団拠点資機材を桃取分団に配備。
 4月 消防職員の定数を改め46人。
 5月 潜水土2名養成。
 7月 消防団員の定数を改め510人。
 11月 長岡分団第1部に消防ポンプ自動車を更新配備。
- 平成27年 1月 各離島消防団に救急事案対応用として折りたたみ式ストレッチャーを配備。
 1月 （一社）日本損害保険協会から小型動力ポンプ付軽消防自動車の寄贈を受け、神島分団に配備。
 3月 神島分団格納庫を改築。
 4月 消防救急デジタル無線共通波設備運用開始。
 9月 救急救命士養成。
 12月 長岡分団第2部、鏡浦分団第1部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
 12月 坂手分団第2部に、台車付小型動力ポンプを更新配備。
 12月 消防救急デジタル無線活動波設備完成、運用開始。
- 平成28年 3月 鳥羽市消防団が消防庁長官表彰「消防団等地域活動表彰」を受賞。
 3月 鳥羽市消防本部・鳥羽市消防団が消防庁長官表彰「竿頭綬」を受章。
 3月 鳥羽市消防署南鳥羽出張所が松尾町に完成。
 3月 小浜町に耐震性防火水槽を新設。
 5月 伊勢志摩サミット消防特別警戒に伴い鳥羽地区警戒本部を設置。鳥羽（船津）現地警戒本部、統括警戒本部へ職員派遣。
 5月 潜水土1名養成。
 9月 救急救命士養成。

- 平成29年 2月 消防庁舎建設基本設計を作成。
 3月 高規格救急車を消防署に更新配備。
 3月 潜水資機材（1基）を消防署に更新配備。
 5月 潜水土1名養成。
 10月 総務省消防庁から救助資機材搭載型小型動力ポンプ付積載車の無償貸付を受け、菅島分団第2部に配備。
 10月 屋外用放送設備、記録媒体を消防団に配備。
 10月 消防庁舎用地造成工事を開始。
 11月 30m級伸縮水路管付先端屈折式はしご車のオーバーホールを実施。
 12月 潜水資機材（1基）を消防署に更新配備。
- 平成30年 3月 池上町に耐震性防火水槽を新設。
 3月 畔蛸町に耐震性防火水槽を新設。
 3月 消防庁舎実施設計を作成。
 5月 潜水土1名養成。
 9月 救急救命士養成。
 11月 志摩生コンクリート協同組合と火災時における消防用水の確保に関する協定書締結。
 11月 消防庁舎用地造成工事完了。
- 平成31年 3月 資機材搬送車を消防署に更新配備。
 令和 元年 9月 救急救命士養成。
 9月 消防庁舎建設工事開始。
- 令和 2年 3月 消防通信指令システム実施設計を作成。
 3月 消防庁舎主訓練塔建設工事実施設計を作成。
 5月 市民から軽事務連絡車の寄贈を受け、消防本部に配備。
 6月 潜水土1名養成。
 7月 消防通信指令システム整備工事開始。
 8月 消防庁舎完成。
 9月 消防庁舎ヘリポート運用開始。
 12月 消防救急デジタル無線活動波設備ほか通信設備移設工事開始。
- 令和 3年 3月 消防通信指令システム完成。
 安楽島町に消防庁舎移転、運用開始。
 4月 消防団災害支援団員制度導入。
 5月 鳥羽市防火協会から防火啓発車の寄贈を受け、消防本部に配備。
 6月 潜水土1名養成。
 9月 救急救命士養成。
 11月 訓練人形、訓練用マットを消防団に配備。
 12月 (社)日本損害保険協会から小型動力ポンプ付積載車（軽）の寄贈を受け、菅島分団に配備。
- 令和 4年 3月 市民から心肺蘇生法トレーニング人形一式他の寄贈を受け、消防署に配備。
 3月 高規格救急車を消防署に更新配備。
 4月 消防団員の定数を改め490人。
 9月 救急救命士1名養成。
 12月 高規格救急車を南鳥羽出張所に更新配備。

- 令和 5年 5月 災害対応特殊消防ポンプ自動車を消防署に更新配備。
6月 潜水土1名養成。
6月 市民からフィットネスバイク1台、ウェイトトレーニング器具（シャフト）2本の寄贈を受け、消防署に配備。
10月 30m級伸縮水路管付先端屈折式はしご車のオーバーホールを実施。
- 令和 6年 1月 能登半島地震発生に伴い、石川県に緊急消防援助隊として職員派遣。
3月 総務省消防庁から消防ポンプ自動車の無償貸付を受け、答志分団第4部に配備。
3月 長岡分団第1部格納庫新築及び長岡分団第1部詰所として旧長岡中学校を改修。
3月 大明西町に耐震性防火水槽を新設。
3月 若杉町に耐震性防火水槽を新設。
3月 消防庁舎危険物屋内貯蔵所完成。
6月 潜水土1名養成。
6月 消防庁舎主訓練塔建設工事開始。
8月 三重南消防通信指令事務協議会の設置に関する協議書調印式。
9月 救急救命士1名養成。
- 令和 7年 1月 消防庁舎主訓練塔完成。
2月 消防庁舎主訓練塔運用開始。
9月 救急救命士1名養成。
9月 呼吸器用高圧空気圧縮機を消防署に配備。
12月 公益財団法人日本消防協会から消防団防災学習・災害活動車（軽自動車）の寄贈を受け、団本部に配備。
12月 鳥羽分団第1部に消防ポンプ自動車を更新配備。
- 令和 8年 1月 可搬型ヘリポート用夜間灯火設備を消防署に配備。
1月 大明東町に耐震性防火水槽を新設。
1月 鳥羽四丁目に耐震性防火水槽を新設。
3月 鏡浦分団第2部、第3部に小型動力ポンプ付軽積載車を更新配備。